

## 令和5年度 第2回 鶴岡市地域ケア推進会議（会議概要）

○日 時 令和5年9月22日（金） 午前10時00分から12時00分まで

○会 場 鶴岡市役所 別棟2号館 会議室

### ○グループワークの概要

今年度のテーマ「いつまでも住み慣れた鶴岡で暮らし続けるために」

前回のグループワークで出された理想の鶴岡にするために必要なしくみ・取組みに関するキーワードを5つ（生涯現役、通いの場・集いの場、見守り体制、移動・移送、デジタル）抜粋し、グループ毎に話し合うキーワードを設定。各グループで、キーワードに沿った1つのしくみ・取組みを決め、具体的な内容について話し合いを実施。

#### 1 グループ キーワード：生涯現役

- ・（必要なしくみ・取組み）「生涯現役相談窓口」の設置。福祉と雇用の2つの窓口を一本化し、どちらの視点も持つ。
- ・（どのように行うか）相談専門員を市または社協に設置。また、多様な分野（スポーツ、健康、教育、商工、農政など）に長けている職員を配置。
- ・（いつ）令和6年に関係機関と協議を深め、制度設計を行い令和7年4月1日から開始。
- ・（どこに）市役所か社協。インターネット窓口も利用する。
- ・（だれが）市が中心となり、関係機関で協議会を設立。メンバーは、シルバー人材センター、JA、ハローワークなど。
- ・（だれにつながる）元気高齢者や生涯現役を求める方。また、特に就労に支援が必要な方もこの窓口へつなげたい。
- ・（必要なお金）市からの補助金。
- ・（その他）健康、自立、活動、心のゆとり、お金、時間、友人、知人、交友関係、その人の能力が十分に発揮できるような社会づくり、充実感、満足感を得ることが次の原動力に繋がる。

#### 2 グループ キーワード：通いの場・集いの場

- ・（必要なしくみ・取組み）色々な活動ができる集いの場。近くにあるとなお良いが遠い時には移動支援もあり、属性を問わず、地域全員顔見知りの場。
- ・（どのようなことを行うか）料理教室、多世代全住民が参加できる夏祭りや芋煮、まち歩き、認知症への理解を深める講座を組み入れる。
- ・（いつ）通年。
- ・（どこで）公民館、空き店舗・空き家、ネットの世界を活用。
- ・（だれが）住民総活躍をキーワードとし、市民ボランティアを募る。特に中高生のボランティアグループの力も借りることで地域への愛着形成にもつながる。また、担い手養成研修会修了者にも協力を依頼したい。
- ・（だれとつながる）回覧板などで、地域内へ呼びかける。移動支援には、日中空いているデイサービスの車を活用。まちづくり塾とのつながりをもつ。
- ・（必要なお金）地域で出し合うのが良いが、お金がかかるため、介護予防の財源や行政の資金援助をパッケージ化して立ち上げの際に使えるようにする。

- ・（その他）最終的には、孤独・孤立対策、子ども・高齢者の貧困対策、介護予防、暑い時、寒い時に避難できる場所になるとよい。

### 3 グループ キーワード：見守り体制

- ・（必要なしくみ・取組み）隣組単位でのつながりや活動を活発にしていく
- ・（どのようなことを行うか）
  - ①民生委員や自治会にて緊急連絡カードの作成・更新。
  - ②回覧板を継続し、お知らせだけでなく、集いの場への出欠とりレスポンスをもらうことで見守る。
  - ③空き家などを利用し、歩いて行ける範囲でお茶会などの集まりの開催や開催の援助を行う。
  - ④スーパーや移動販売など、買い物をする場に集まることで見守りを行う。そのために、買い物の場に集まれる場を作り、見守りだけでなく集いの場としても活用していく。
- ・（必要なお金）集いの場を作る、空き家を集いの場に変換するための資金。

### 4 グループ キーワード：移送・移動

- ①・（必要なしくみ・取組み）地域支え合い型の移送サービス
    - ・（どのように行うか）担い手組織の確立。車両の確保。保険（事故時のために）
    - ・（いつ）第9期介護保険事業計画期間中に達成
    - ・（どこで）地域の町内会
    - ・（だれが）地域住民。行政や生活支援コーディネーターが支援する。
    - ・（だれとつながる）地域との交流も含めた保育園の空きバスの活用。介護事業所（デイサービスなど）の車両やおおぞら号の活用。
    - ・（必要なお金）補助金
  - ②・（必要なしくみ・取組み）企業共同型連携移送サービス
    - ・（どのようなことを行うか）スーパー、協同組合、産直等から協力をいただく。また、病院に付き添いが必要な方への支援もしていく。そのために、買い物や通院に困っており助けていただきたいということを企業に理解してもらうための勉強会を開催する。
    - ・（いつ）第9期介護保険事業計画期間中に達成
    - ・（どこで）民間企業の共同体
    - ・（だれが）民間企業。行政や議員、生活支援コーディネーターが支援する。地域住民。
    - ・（だれとつながる）地元に店舗を構えている企業。現在移送サービスをしている所に、更に移送範囲を拡大していただく。また、送迎車両に広告を掲載し、企業のPRを行う。
    - ・（必要なお金）企業で負担。
- ①と②の取り組みを通して、実際に目で見えて買い物することで、喜びを感じ、生き生きとした生活を送ることができる。

### 5 グループ キーワード：デジタル

- ・（必要なしくみ・取組み）ネットワーク環境の整備と活用の普及。
- ・（どのようなことを行うか）モデル地区での普及事業を行う。オンライン診療や、ネットでの買い物、ウーバードラッグ、オンラインサロン、生活支援のマッチングアプリ、eスポーツ、スマホ教室、デジタル見守りなど生活全般を支援できるようなことを実施する。
- ・（いつ）すぐに行いたい、実際は何年間かかるのではないかと。モデル地区での実施は、3か月単位にして、より多くの集落で実施する。
- ・（どこで）集落単位。全戸で実施。

- ・（だれが）最初のネットワーク環境の整備と活用普及のしかけは行政。企業と連携。デジタルマイスター制度を作り、デジタルが得意な人、若い人の力を借りる。
- ・（だれとつながる）使い方の支援や故障の際の対応のために、民間通信会社。医師、薬局、スーパーなど。
- ・（必要なお金）行政。民間会社と連携し、機器を提供してもらおう。国や県の事業を活用する。
- ・（その他）デジタルの普及で便利になるほど外に出なくなるのではとの懸念もあるが、デジタルマイスター制度等により、機器が壊れた時に助けてほしいと声を出すことで人と人との関係性やつながりもできていくと考えられる。

（感想・まとめ）

前回よりも話し合いが盛り上がっていて素晴らしかった。このグループワークは、行政・市民・法人や団体・生活支援コーディネーターでの話し合いだった。これからの地域づくりを考えた時に、このような形での話し合いはこれから必要なことであると全体を眺めていて強く感じた。自分たちの地域をよくするために知恵を出し合うことは、行政だけで行うことではなく、地域の方々みんなで出し合っていくことが必要なことだと思うので、来年度以降、こういったものを地域に落とし込んでいけないかと感じた。

今回いただいたご意見を具体的な形にできるかどうかは、これから検討していくところである。第9期介護保険事業計画は高齢者の福祉計画を抱き合わせで作っていくので、いただいたご意見を練りこみ、来年度以降も皆さまからご意見をいただきながらすすめていくように計画に落とし込んでいきたい。また、いくつかのアイデアは実現に向けて取組んでいきたい。

